

## 『真実に愛するために』 ヨハネの福音書8章1～12節 2018.8.5 聖日礼拝説教より

『わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。』  
ヨハネの福音書 8:12

第6戒「殺すな」が「命の尊厳」を問うなら、第7戒「姦淫するな」は、「人間そのものの尊厳」を問う。人は『真実な交わり』の中でこそ生きる！

**①目に見える罪は、目に見えない心から**…三位一体の神様が愛の交わりで堅く一つに結ばれているように、人も「愛の交わり(互いに補い、助け合う関係)」の中で結ばれるように創られた(創世記 1:27)。だから「関係を壊すこと」は、罪の中の罪、『姦淫の罪』は御心への最大の反逆！マタイ 5:27～30 にあるように、関係を壊す原因は心の奥底にある。その不健全な欲望が、目に見える裏切り行為となる。

**②イエス様の説く「姦淫の罪」(マタイ 5:27～30)**…「情欲」とは神聖な性欲とは違い、「ひどく欲しがる／ひどくしたがる」の意。相手をわがもののように支配する感情。人はモノではなく、「人格」があり、結ばれるにも神の選びと計画がある(ペットとは違う)！人それぞれに、神の特別な計画と個別の人格があり、病んでも老いても尊敬されるべき存在。★人の心の「ひそかな罪」を、イエスはすべてを知った上で裁かず、まず神の愛に立ち返るように招かれる！

**③罪への勝利の道(ヨハネ 8:3～12)**…「姦淫の罪」現場で捕えられ、極刑を迫られた罪の女に対してイエス様は、「罪のない者が石を投げろ」と告げて、「姦淫の罪は絶対に赦されないが、全ての人がこの罪を犯している」と暴露した！そのうえで罪の赦しと警告『今からは決して罪を犯すな(8:11)』を発する！これは「裁きの執行猶予」であり「人生はやり直せる」とのメッセージ！「今後は、わたしがあなたを正しい道に導く。わたしと共に歩め！」。それは、聖い人生への「チャレンジ」であり、「もう懲りただろう。今後は罪を犯すはずないよね」との信頼でもある。8:12 の『いのちの光』とは、まさに盲人の開眼！暗闇で簡単に誘惑に負けていた人生が光に照らされ、真理に目が開かれ、神様が喜ぶことと悲しむこと、聖いことと汚れたことを知る者とされた。何より、「私の贖い主、救い主」を知った。この方と共に歩む人生に闇はない。

★性的な罪(誘惑)への勝利は、御前で生きること！そして、汚れたもの絶対に見ない、(結婚するまで)絶対に触らない(マタイ 5:29～30)！神ならぬものを拝む「霊的姦淫」を悔い改め、その神の愛に支えられ、汚れた性愛を聖められ、闇でゴソゴソ生きる人生から、光のうちに堂々と歩む人生に変えられたい！